

長万部の

教育

コーナー



今、学校では

『こどもは雪の子元気な子』
さかえ保育所

さかえ保育所の子どもたちは冬でも元気いっぱい！寒さに負けず、外へ出て雪遊びを楽しんでいます。子ども用のスコップで、ソリに雪を積んで運んだり、雪だるまを作ったり、雪山に登って滑ったり、全身で雪の感触を味わいながら遊ぶことに夢中です。動きにくい雪の中で、小さな身体を思いつきり動かしているので、「あつつい！」と言って、帽子や手袋を脱ぐと、体からホカホカと湯気が立つことも。存分に動いた後は、お腹はペコペコ、身体はクタクタ。それでも、おいしい給食をたくさん食べて、ぐっすり



大きな雪だるまと

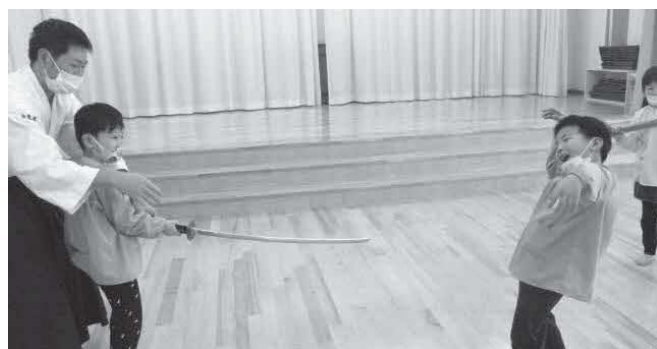
お昼寝すると再び元気いっぱい！「またお外に遊びに行きたい！」と雪で遊ぶのが好きな子どもたちです。雪遊びがたつぷりできるのも今月まで。残り少ない冬を心ゆくまで楽しみたいと思います。

色とりどりの日々を
認定こども園 長万部マリア幼稚園

コロナ禍に入り、早四年目になるでしょうか：なかなか明けない中、少しずつ園外の方々との交流も戻り始めています。初めての集団生活となる園生活の中では、様々な人との関わりを通して心豊かになっていくと考えます。園内の先生たちとの信頼関係を基盤に園外の方々の方々と触れ合う中で、吸収するものは多く、貴重な時間でもあります。今年度は、昨年同様、理科大のブラウン先生にお願いし、英語の時間を設けたり、カメちゃん先生に空手道や合気道など、武道に親しむ機会を設けていただいたり、その他フラダンスやかけっこなど専門的に教えていただくことで子どもたちや先生たちの意欲やモチベーションアップにもつながっています。また、高校生の総合的な探求の時間を利用した園訪問においては、園児と触れ合いながら、後半の時間は園内清掃のお手伝いや保護者の方々の協力で収集した牛乳パックを用いて車を



作成し、未満児にプレゼントしてくれました。地域の皆様と色々な形で触れ合いながら互いに相乗効果が表れることが目標でもあり、子どもたちが持つ、素晴らしい可能性やパワーを感じ、それぞれが色とりどりの思いを抱き、前進してもらえますように今後も地域に根付いた園を目指したいと思います。今年もよろしくお願い致します。



写真で見る学校の様子

長万部高等学校

長万部中学校

長万部小学校



12月14日
「1年生現代の国語」町民参加の授業



12月15日
租税教室（3年生）



12月7日 役場税務課の方を講師として、税金の種類や使い道について学習しました。（6年生）



12月23日
「体育大会①」



12月20日
全校スキルアップ・プロジェクト



12月16日 保健師の方を講師として、飲酒や喫煙、薬物乱用による体への影響を学習しました。（6年生）



12月23日
「体育大会②」



12月21日
全校いじめ撲滅集会



12月16日 赤い羽根共同募金で集まったお金を町社会福祉協議会 呉会長へ手渡しました。

「もし人の悪口を言うならば、それが自分に返ってくることを予期せよ」

長万部中学校長 雨澤啓司

この言葉は古代ローマの喜劇作家プラウタスという人の言葉です。「山彦」を例にこのことを詳しく説明します。「ヤッホー」と叫ぶと「バカヤロー」と叫ぶと「バカヤロー」と返ってくる。友達に親切にすると、友達から親切が返ってくる。人の悪口を言うと必ず自分の悪口となって「山彦」が返ってくる。自己中心的な無責任な言動は、その人を嵐や氷河に突き落とす「山彦」を招くに違いない。つまり、プラス思考の人にはプラスの「山彦」が、マイナス思考の人にはマイナスの「山彦」が囲んでいる。神経を伝わる「山彦」は血管や筋肉に作用して美しい顔を作ったり、鬼の顔を作ったりするのはないでしょうか。同様な意味合いで使用される「天に向かって唾を吐く」も「人に害を与えようとして、結局自分に返ってくるような行為をすること」を意味します。私たちの生き方は是非役立たい「教訓」だと心から感じます。

渡辺さんは健康が取り柄だったので、心の病を経験した後、わかることがあったそうです。そのときの心情をよく表しているのが（相田みつを著『にんげんだもの』より）「つまづいたおかげで」という詩でした。「つまづいたりころんだりしたおかげで物事を深く考えるようになりました」：マイナスをプラスに変えて生きていくた

私たちは人間は、誰でも自分